

歴史街道第10期計画

令和3（2021）年度～令和5（2023）年度

令和3（2021）年6月

歴史街道推進協議会

目 次

はじめに	… 2
『「歴史街道」づくりの提言』	… 4
I. 第9期中期計画総括	
1. 第9期中期計画（3年間の取組み方針）	… 6
2. 第9期中期計画進捗状況	… 6
3. 各事業の取組状況	… 8
4. 会員数推移（法人・個人）	… 12
5. 年度別収支推移	… 13
6. 第9期の取組みに対する評価	… 14
7. 第10期中期計画策定にあたっての意見・要望	… 15
II. 第10期中期計画	
1. 第10期の課題	… 16
2. 考慮すべき環境与件	… 16
3. 第10期中期計画（基本方針）	… 17
4. 第10期中期計画（取組方針）	… 18
5. 主要事業施策	… 21
6. 事務局要員計画	… 22
7. 年度別収支計画	… 22
III. 令和3（2021）年度 展開計画	
1. 歴史街道 Instagram 投稿キャンペーン	… 24
2. 歴史街道ガイドブックキャラクター本の制作	… 25
3. 30周年記念フォーラムの開催	… 27
4. 歴史街道倶楽部入会促進拡大キャンペーン	… 28
5. マイクロツーリズム（まち歩き）の推進	… 28
6. ゲームオペレーション（歴史街道版謎解きイベント）試行	… 30
7. 歴史ロゲイニング（フォトロゲイニング）	… 31
8. デジタル化施策の導入（教材開発・普及活動）	… 32
企画別ターゲット層	… 33
参考資料	… 35

はじめに

日本文化の発信と継承を目的とした「世界を考える京都座会」の「歴史街道」構想の提言（昭和63年（1988）3月）を受け、平成3年（1991）に歴史街道推進協議会（以下、協議会）を発足。「歴史街道マスタープラン」、「同マスタースケジュール」を推進指針に、平成6年（1994）に第1期中期計画を策定。以来3年毎に中期計画を策定し、官民が広域的に連携しながら各種事業を推進してきました。本書はその「第10期計画」であり、令和3（2021）年度から令和5（2023）年度までの事業の方向性を示したものです。

第10期計画の策定にあたっては、昨年来からの新型コロナウイルス感染症のパンデミック（世界的大流行）の影響を踏まえつつ、第9期における各種事業や付帯重要案件等の進捗状況を確認し総括を行いました。

合わせて、会員の皆様から第9期の評価と第10期計画策定に当たっての意見をお聞かせいただきました。

それらの評価を肯定的評価と要努力評価に分けて取りまとめたところ、肯定的評価では、「概ね計画通りの事業進捗で、第10期に向けた礎ができた」「情報発信が充実してWEB展開の成果を上げている」「『日本文化体感プログラム事業』が次世代育成支援に貢献している」等といった評価をいただく一方、要努力評価では、「事業が地域毎の単発のイメージが強く、歴史街道の一体感が薄い」「協議会活動の地域への経済的寄与度合いを数字などで明確にできないか」「費用対効果の観点からは十分な成果が得られていない」等といった意見が寄せられました。

また、第10期計画策定に当たっての意見・要望を「運営組織面」と「活動面」に分けて取りまとめたところ、運営組織面では、「施策の意義・効果・会員とのシナジー等の評価軸による構造改革を」「当協議会の存続も含め、抜本的に在り方を見直していく時期」等といった意見が、活動面では、「協議会だからこそ可能な広域官民連携事業の展開を期待」「日本文化体験プログラムの更なる定着」「次世代のファンづくり、いわゆる若者向けへの取り組みも必要」等といった意見が寄せられました。

そうした会員の皆様からの評価、意見・要望を踏まえて専門部会を立ち上げ、同部会において第10期中期計画を検討し策定いたしました。

第10期計画では、新型コロナウイルス感染症の影響により活動がなにかと制約されますが、第10期の課題や策定に当たって考慮すべき環境と件を整理した上で、次の基本方針を策定いたしました。

新型コロナウイルスによる新しい常態（ニューノーマル）を前提とし、歴史街道計画の原点にある考え方と同推進活動30年のこれまでの蓄積を活かしつつ、2025年大阪・関西万博での情報発信及び次の時代へと続く永続的持続可能な活動を目指す。

第10期計画では、「次の時代へと続く永続的持続可能な活動へのトランスフォーメーション」を通期のテーマとして掲げて参ります。その背景にあるのは、コロナ禍による新たな常態（ニューノーマル）の中、令和3年度（2021年度）が協議会発足30年の大きな節目の年に当たり、仕事のやり方、組織の在り方、若年ファン層開拓等を含めて、今後、新しい時代へ変化適応していかなければならない大きな機会でもあると考えるからです。

コロナ禍の影響がどれだけ続くか予測できませんが、3カ年をウイズコロナとアフター・ポストコロナに区分し、通期テーマを実現するため、次の取組み方針に沿った方策を講じて参ります。

1. 時代に合った広報活動の更なる拡充
2. ターゲット層の拡大（若年層への積極的なアプローチ）
3. デジタル化施策の積極的導入

また、3カ年を通して、広域官民連携事業の継続的展開とWEBサイトを最大限活用した情報発信に取り組む一方、継続検討重要案件として、「歴史街道計画推進運営組織形態の検討＝協議会方式の継続もしくはその他方式への変更」も合わせて議論していく必要があると考えております。

このように、第10期計画での取組みを通して、令和7年（2025年）の大阪・関西万博での歴史街道としての情報発信に繋げていきたいと考えておりますので、引き続き、協議会の活動に対し、会員の皆様並びに関係各位のご支援・ご協力をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

令和3（2021）年6月
歴史街道推進協議会

『「歴史街道」づくりの提言』

外国人に「日本について何を知っていますか」と尋ねると、まず返ってくるのは商品と企業の名前です。経済大国の日本としてそれは当然でしょうが、それ以外のことがほとんど知られていないのは寂しいことです。文化や歴史、功績ある人々の名前などがほとんど知られていないのです。

「人間の顔のない経済大国」、「商品を吐き出すブラックボックス」。日本に対するこうした評価は正しいものではありませんが、私たち日本人もこれまでは、自国の文化や伝統、こころや生活感覚を世界に知らせようという意識が薄かったことも事実でしょう。いや今も、日本の文化やこころを知らせるのは、貿易摩擦のため、よりよい経済関係を深めるため、つまり経済が目的で文化やこころの問題はそのための手段という気持ちがあるのではないのでしょうか。

さらにいえば、私たち日本人自身も、物質的な豊かさ、物理的環境の快適さや便利さを追い求めるのに忙しく、その根底にある日本の文化や伝統や特有の発想について考える余裕を失っているきらいがあるのではないのでしょうか。

今や日本は、世界の16%もの生産力をもち、世界の総輸出の5%にも当たる貿易黒字を計上し、世界中の貯蓄の半分以上を占める巨大な経済力をもつようになっています。日本の経済は、私たちの実感をはるかに超えて、国際化し巨大化しているのです。このままでは日本は「金儲けにしか関心のない国」という評価が定着してしまう恐れがあります。

このような現実を超え、日本人自身も外国の人々にも、長い歴史に培われた日本の文化とこころを深く認識するような実効ある具体的な計画を考える必要があると考えます。

そこで、私たちが着目したのは、日本の文化、日本人のこころが形成された過程を、その現場において見聞することです。

独特の風土を持ったこの国土で生まれた日本文化には、特有の性格があります。同時に世界にも類例のないこの国土の文明的位置の故に、東洋と西洋の文明を巧みに吸収し消化することもできました。現代の日本の文化と日本人のこころは、そうした歴史の成果として築かれたものです。従ってこれを正しく認識し深く理解するためには、歴史現場においてそれぞれの時代の文物と環境を味わうことが大切でしょう。

文化を知りこころを解するためには、書かれた文章を覚え、並べられた事物を知るだけでは充分ではありません。体験の記憶と自ら試みた実感をもって親しみひたるのでなければ、本当の文化を知ることにはならないのではないかと思います。

このような考え方から、私たちは日本の文化と歴史を体験し実感する旅筋、いわば「歴史を楽しむルート」としての「歴史街道」の開発整備を提唱するものです。

幸いにして日本では、主要な歴史の現場を、ほぼ歴史年代の順に訪ねる旅をすることができます。それは、さほど遠い距離でもなくあまり長い時間をかけることもない範囲にあります。つまり、「勤勉に楽しむ」日本人の性格にも、短い日数で日本を訪れる外国人にも、無理なく巡れるルートとなり得るのです。

この「歴史街道」構想は、日本人のこころに伝えられてきた「生なり」の文化の源流というべき神話の地・伊勢からはじまり、古代から中世にかけての三つの都一飛鳥、奈良、京都一とその近郊を巡り、秀吉以降の商人文化の中心地「大阪」、明治以降の国際交流を象徴する神戸を結ぶこととなります。

勿論、日本文化の最も古い歴史をもつこの地域には、多くの歴史文物があり、伝統的な行事や芸術技能が保たれております。また、隠された文物や知られざるころの跡も多いことでしょう。さらにこれから追加すべき「もてなし」のハードやソフトの開発も重要になるでしょう。新しい技術や思想を吸収し活用してきた日本の歴史そのままに、高度な技術や斬新な発想を導入しなければならないことも多いに違いありません。快適な移動方法や多彩な楽しみの導入も大切です。「歴史街道」は、常に開発され更新される知的な観光ルートでなければならないと思うからです。

文化は突如として興るものではありません。伝統を大切にしない文化が長く栄えたためしはなく、新しい技術と発想の導入なしに長く保たれた伝統もまたありません。豊かな国になった日本は、その歴史とところに根づいた文化を、歴史の現場から世界に発信する必要があります。私たちは、この「歴史街道」を現代に生かすことが、二千年の日本の歴史に新しい楽しみを加えると共に、百年後、千年後に現代の英知と繁栄を伝える試みでもあることを願うものです。

今、日本では新しい街づくり、新しい国際交流の場の建設が進められていますが、同時に先人から受け継いだ歴史の現場を、新たな知的興奮の舞台にすることも大切ではないでしょうか。

昭和63（1988）年3月

世界を考える京都座会

松下幸之助	天谷直弘	飯田経夫
石井威望	牛尾治朗	加藤 寛
高坂正堯	堺屋太一	斎藤精一郎
広中平祐	山本七平	渡部昇一